



# 杉山たかのり

 ニュース

市議会内 日本共産党市会議員団控室 Tel.35-3368

自宅 西宮市津門仁辺町5-21 Tel・Fax35-1682

団ホームページ <http://nishinomiya.jcp-giin.net/>

ブログ・ツイッター [杉山たかのり](#) フェイスブック [杉山孝教](#) で検索を

9月議会がはじまり、9月10日、杉山たかのり議員が一般質問を行いました。質問は、名神湾岸連絡線、学校給食の無償化、県市病院統合の3問です。順次紹介します。

## 名神湾岸連絡線

杉山たかのり議員の一般質問 その1

## 今津地域を犠牲にしているのか！

この名神湾岸連絡線については、日本共産党西宮市会議員団は、当初からムダ使いの大型公共事業であり、地域の環境を破壊するとの観点から反対をしてきました。

西宮市当局は一貫して、名神湾岸連絡線の整備を推進する立場を示してきました。現在策定中の第5次西宮市総合計画（素案）でも、名神湾岸連絡線の計画の具体化を国に要請するとしている。



国土交通省は、計画段階評価での検討を経て、名神高速道路西宮インターチェンジと阪神高速5号湾岸線を西宮浜で結ぶ延長約3km、2車線高架案とする計画を決定しました。その他、北側には阪神高速3号神戸線と大阪方向へつなぐ西宮ジャンクションを設置、南側には西宮浜インターチェンジと阪神高速5号湾岸線と大阪・神戸両方向へ接続する西宮浜ジャンクションが設置されることとなります。

現在、都市計画対象道路事業として、都市計画と環境影響評価の手続きに着手し、8月10日から9月10日まで環境影響評価概要書の公告・縦覧及び西宮市内4箇所で開催された説明会が実施され、住民等の意見書の提出を求めています。その後、市長の意見、知事の意見が提出され、環境アセスメントの方法が決定されます。

正式にルートや構造など都市計画案が立案されれば、環境調査を事業者となる国土交通省が実施し、環境影響評価と都市計画が並行して取り組まれることとなります。

私は今津小学校での概要書の説明会に参加させていただきましたが、参加者からは、当初の計画に比べて、高速道路の接続が非常に複雑で、大規模なジャンクションが必要

となり、立ち退きも広い範囲になりそうだと、地域住民の生活と環境への影響が大きくなることへの懸念が発言されました。

その意味では、環境影響評価の結果は非常に重要だと思います。

### 質問

- 1 環境影響評価概要書の説明会への住民の参加状況、そこで出た意見などをきく。
- 2 6月議会、市当局は、「車線数や周辺道路との接続を必要最小限にすることや、県の条例に準拠した環境影響評価を実施することなど、本市の意見を踏まえて検討されたものと考えております」と答弁しており、生活や環境への影響の大きさが心配だとする意見とは、かけ離れていると思われませんが、その点はどう考えているのか。
- 3 大きな問題の一つは、今津地区のコミュニティへの影響です。環境影響評価で、コミュニティへの影響について評価できるのか。
- 4 環境影響評価にむけて、市長の意見が求められるが、どのような立場で意見を表明しようとしているのか。
- 5 環境影響評価の結果によっては、名神湾岸連絡線整備に対する市の考え方、推進という立場から、反対の立場に変わることはあるのか。

### 市答弁の概要

概要書の説明会は、3会場4回48名が参加、阪神高速3号神戸線との接続、酒蔵への影響、アンケートや今回の説明会の周知、今後の手続きの進め方など多岐にわたる。

インターチェンジ構造の複雑化が周辺に与える影響について以前から懸念していた。「地域への影響を軽減」「住環境や景観に対する影響とその対策について丁寧に検討」するよう兵庫県幹線道路協議会に意見を提出、こうした市の意向を踏まえ、接続の可能性のある3方向のうち必要性の高い3号神戸線の大阪方面のみを接続することになった。

市長の意見は、「環境影響評価専門委員」の諮問を踏まえ、当該事業の位置づけや必要性和関係なく、「概要書の内容に関する環境保全の見地からの意見」で構成する。

環境影響評価実施で、必要十分な対策が検討・実施されるものと考えている。

### 解説

杉山議員は名神湾岸連絡線が整備されるルート帯にかかる町名と説明会での参加者の発言を再質問しましたが、市当局は全く答えられず。「地元調整に協力する」と言いながら、地元がどこなのか、地元の声はなにか、全く把握していないことが明らかに。

また、整備目的の「事故・災害・緊急時の代替路や強靱な道路を確保」について、杉山議員は「この3か月の地震、台風時の道路状況は」との再質問で、湾岸線も神戸線も通行止めとなり、緊急時に役立たないことが明らかに。にもかかわらず、「復旧後に役立つ」と苦し紛れの答弁に終始しました。

市は、環境を悪化させようが、災害時使えなくても、どれだけ整備費がかかろうが、とにかく「道路整備ありき」の姿勢を示しました。まるで国の代弁者のようでした。